

難防除雑草オオアレチノギク対策には プリグロックスL（100倍液）の 秋冬期（11～2月頃）散布が おススメ！

なぜ？

- オオアレチノギクは、秋に発芽し、そのままロゼット状態で越冬し 根部・茎部に養分を蓄え、春に爆発的に成長します。
- 秋に発芽したばかりの雑草は若く、プリグロックスLに対してもよく反応します。
- プリグロックスLは、**低温時でも効果が変わらず、速効的に枯らすことができます！** そして、枯れたオオアレチノギクは春になっても**再生が見られません。**



ロゼット状態のオオアレチノギク
撮影日：2017年12月7日



試験区：プリグロックスL100倍
撮影日：2017年12月15日（散布8日後）

光と酸素さえあれば、低温でもしっかり枯らす。

■秋冬期間の低温下におけるプリグロックスLの効果

ギシギシ		最低気温	最高気温
プリグロックスL	対照剤A	散布日	
		散布日	1.2℃ 16.4℃
		散布1日後	-0.5℃ 12.7℃
		散布2日後	-1.8℃ 13.2℃
		散布3日後	-2.6℃ 14.8℃
		散布4日後	-1.8℃ 15.2℃

試験場所：
シンジェンタジャパン(株)中央研究所
対象草種：ギシギシ
散布薬量：100倍液
散布日：2013年11月28日
調査：処理4日後に除草効果を調査

■オオアレチノギクにおけるプリグロックスLの効果

プリグロックスLは **芯まで枯れ**、
対照剤Aは、**芯が残りました。**



切断面は乾燥し、維管束に水分が無くバサバサ。



切断面に水分があり、維管束も確認できいきいき。

再生



試験場所：シンジェンタジャパン(株)
散布日：2018年8月7日
撮影：散布20日後
対象草種：オオアレチノギク
地表面から5cmで切断

<技術情報>

プリグロックス[®]L

農林水産省登録:第16397号 有効成分:ジクワットジプロミド7.0% パラコートジクロリド5.0% 毒物及び劇物取締法:毒物

最新情報は
こちら



オオアレチノギク: 一年生(越年生)キク科

南アメリカ原産のキク科一年生(越年生)雑草で鋸歯を持つ線形の葉を持ち、直立した茎が伸張して高さ2.0m近くまで成長します。葉は、両面に短毛が密生して生えており、葉を触るとすべすべとした手触りがします。

◆生育ステージとオススメの防除タイミング



早めの散布が
おすすめです。

防除
適期

11~2月頃(お勧めの時期)



プリグロックスL 100倍 有効時期(11~5月頃)



プリグロックス[®]L

ロゼット~15cmの低温時でも、15cm~30cmでも、芯まで枯らすプリグロックスLが有効。

推奨濃度:100倍を丁寧に

低温でもしっかり枯らす

散布前

散布18日後



試験場所:シンジェンタジャパン(株) 2016年11月18日散布



↑無処理区
↓プリグロ100倍

撮影日:2018年5月11日
試験地:天水地区
試験区:2017年11月14日散布
プリグロックスL100倍

プリグロックスLの特長

- ① 100倍液散布で経済的です。
- ② 低温期でも変わらない効果!
気温の低い秋冬期散布でも速効的に枯らすことができる。
- ③ 秋冬期処理で春の除草作業が楽!

プリグロックスLの秋冬期処理だと2つの効果で春先の雑草の繁茂が遅くなることで、散布を遅らせたり、散布作業の軽減できたり、春先の作業が楽になります。

<2つの効果>

- ・秋冬期に発芽した越冬雑草を枯死させます。
- ・土壌表面にあるイネ科春雑草種子の種子発芽後枯殺効果が期待できます。

種子発芽後枯殺効果についてはコチラのHP
(水稲の話ですが、水稲以外の場面にも期待できます。)

